

## 109 學年度第一學期 Eurasia 基金會國際講座

### 「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」(15)

#### 議題：韓国のFTA推進戦略と政治的経済的効果

第15回Eurasia基金会国際講座は、本校韓国語文学系陳蒿堯教授を招き、韓国のFTA推進戦略と政治的経済的効果について話してもらった。陳教授はまず台湾と韓国の関係が多分に競争的な協力関係にあること、両国の貿易パートナーが高度に重なる点から始めた。そしてFTAは単なる経済貿易問題ではなく、背景に外交、安全、政治的判断の側面をはらんでいるという。講演内容は以下の七項である。

#### 一、推進締結の背景と多面的判断

韓国は1980年代中期に地域経済統合と世界貿易の自由化の影響を受け、FTAが貿易の障壁を取り除き、貿易転換効果を高め、投資を促進することを認識した。そこでFTA推進の議論が始まったが、国内農業への打撃が大きく中止された。1992年北米地域で北米自由貿易協定（NAFTA）の推進が成功すると、韓国政府は再び全面的に検討に入った。

1993年金泳三は「新韓国（New Korea）」政策構想を打ち出し、「新経済五カ年計画」による経済改革を行い、長期にわたった政府主導の経済体制を民間主導に転化し、企業の革新を奨励した。1994年には「世界化政策」を展開して、総合的国際競争力を高めた。

1997年にアジアの金融危機が爆発すると、韓国政府はたびたび経済構造再編のプロセスを経て、再度FTA政策推進の実効性を評議し、「通商交渉本部」を設置、FTA関連作業の推進を始めた。

#### 二、戦略計画

韓国のFTA推進戦略はまず積極的に対外協定し、意欲的で且つ多くを要求しない国家を優先した。国内的には国民にコンセンサスを求め、FTAによって損失を受ける団体に合理的な補償プランを提示した。次いで同時に多方面にわたる、概括的、大型の経済協定を進めた。対象は短期と長期に分かれ、短期は日本、シンガポール、ASEAN等で、長期対象はアメリカ、欧州連合、中国大陸など経済的に適切で、政治外交上に意味のある国家が選ばれている。戦略は三期に分けられる。1988～2004年は主に談判を重ねた。2004～2012年は多面的に進め、アメリカと欧州連合などの巨大な市場へ進出する協定を結んだ。最後に2013年以後は多くの国家と協定し、成果をあげた。

韓国がFTA締結対象に選んだ基準には二種ある。一つは巨大市場、科学技術

の協力、巨大市場へ進出する窓口、資源が豊富なこと。二つ目は国家の安全、天然資源不足の補填、市場開拓、開発途上国を飛躍させるためである。

### 三、政策計画と政治挑戦

韓国がFTA推進のために考慮したのは国際的政治経済の発展、政策補償および分配的正義、立法の監督、対外談判組織の調整等の四つである。韓国はFTAを進めるために、全面的に法規を改定し、部会組織を整理して、国際談判を強化した。「通商条約」にもとづき、法律面では対外的な「通商促進委員会」を、国内的には「国内対策委員会」を設置した。そして各産業が受けた損失に対し「FTA直接受害補救制度」を施行して、FTA締結国家のチリの場合のように、韓国の農業（ブドウ）に対し季節的関税を設けた。

### 四、作業手順と国家監督機構

韓国はまず法を定め、それから審査する。それは国内および国外部分に分けられる。まず国家の優先を了解させ、国内企業を救済しながら表に立たせ、また国民には国家がその職責を果たしていることを理解させ、韓米FTA署名後に起きた牛肉問題のようなことが起きないようにする。救済措置は二段階で行われる。一つは談判前で、最初に国会でFTA推進報告し、損失を受ける可能性のある産業に国家優先の状況を理解させた後で、再び談判に入る。第二段階は法案署名後で、国会は同意権の行使を利用して、立法による救済措置を行使し、第一段階の不十分な点を改善する。

### 五、社会に対する政治的経済的衝撃

FTAの調印は韓国に政治的経済的衝撃をもたらした。韓国は大企業を中心とし、例えば三星はGDPの30パーセントを占めている。大企業は政府に非関税貿易の障壁を打開することを求め、そのためすべての企業が平等に利益を得ることはない。FTAに調印すると、物価の上昇、階層の対立、利益の不均等、貧富の格差、通貨の膨張等の問題をもたらさう。

### 六、戦略の構造、効果、調印の現況

韓国のFTA戦略はチリから始まり、アメリカ市場へ参入する窓口国家として、北米自由貿易協定 (NAFTA) 加盟国のメキシコと協定した。「外廓刺激」と「多軌並進」の推進政策により、カナダ、シンガポール、欧州自由貿易連合 (EFTA) をジャンプ台にしてアメリカ、ASEAN、欧州連合などと主要な貿易パートナーとなり、FTA談判を進めている。他に韓米FTA談判の成果を利用して、オーストラリア、ニュージーランド等の農畜産物の主要輸出国に積極的にFTA談判の展開を求めている。

韓国のFTA調印国は現状ですでに16カ国、協議は達成しているが未調印の国

が4カ国、談判中が7カ国（韓中日は交渉済み）である。

#### 七、韓国のFTA戦略が台湾に与える啓発

(1) 交渉組織の計画および運用モデル：交渉団はトップの人員以外に、舞台裏のスタッフおよび未来の継承人員を含む。交渉団は十分な権利を持って働けるので、交渉の駆け引き材料が増え、交渉を迅速にできる。

(2) 国際貿易談判の人材育成：①政府は雇用方式によって貿易、法律等の専門人材を集めている。②大企業はシンクタンクを設立し、大学生を集めて養成、養成後に大学へもどし、貢献させている。

(3) 自由化開放の準備：台湾は外交上、政治上の制約を受けており、発展しようがない。しかし韓国は開発途国の立場を利用して、国内産業を保護する補償措置を採ることができた。

(網頁連結: [https:// Eurasia.pccu.edu.tw/faculty.php](https://Eurasia.pccu.edu.tw/faculty.php))

(撰稿:陳毓敏・日文系副教授)

(日本語訳:塚本善也・日文系副教授)